

2007年9月18日日本テレビ 定例会長社長記者会見

＜発表＞

久保伸太郎社長：この度、日本テレビと読売新聞は、ニュース写真及び動画の投稿サイト、「みんなで特ダネ！」を9月20日から共同で開設します。全国紙とキー局が共同でこのような事業を営むのは、おそらく初めてのことです。もともと、新聞社やテレビ局には、事件、事故などがありますと、読者、視聴者の皆さまから様々な写真や映像が送られてきますが、それをこのような形で集約するところに特徴があります。

続いて、土屋敏男編成局デジタルコンテンツセンターED（エクゼクティブ・ディレクター）が、今年第5回目を迎える「Webクリエーションアワード」（社団法人 日本アドバタイザーズ協会 Web広告研究会主催）で「Web人賞」をいただきましたことをお知らせいたします。

それから、第3回目の「日テレ体験教室」のお知らせです。中継車を小学校に持ち込んで、「テレビってこういうふうにしてできるんですよ」ということを、一緒に機材に触れながら、テレビの面白さを体験していただく授業です。9月28日に目黒区内の小学校で開催します。テレビの面白さや、テレビの持つ媒体としての特性等について、子どもたちにも理解してもらえるような自主的な取り組みや努力は重要ではないかと思っていますので、引き続き続けていきたいと思っています。

またお手元に、今年後半に力を入れたいと思っている映画のパンフレットをお配りしました。「マリと子犬の物語」、「Always 続・三丁目の夕日」、「めがね」です。この映画3本、ぜひよろしくお願ひします。

1. 上半期視聴率動向の総括と10月改編のポイント

記者：上半期の視聴率動向の総括と10月改編のポイント、下半期のスポーツイベントなどについてお聞かせ下さい。

久保社長：上半期については、4月にゴールデン、プライムの時間帯、およそ

3分の1という大幅な改編に着手しました。これは去年の10月からの改編の流れの中で行っているものですが、土曜、日曜については、この改編は一応成功したと判断しています。ただし、月曜日から金曜日までの平日については、なかなか視聴率が浮上しない、また、ばらつきがあるのが課題です。上半期、4月から9月直近時点までの土日に限っての視聴率比較をキー局同士でしてみますと、改編の成果が着実に出て、日本テレビが全時間帯トップの四冠王です。

ただし平日に関しては、全日あるいはノンプライムの時間帯は、非常に健闘していますが、ゴールデン、プライムの時間帯は、期待したような成果はまだ上がっていません。特に月曜日と火曜日のゴールデン、プライムの時間帯に大きな課題があると考えて、編成担当、編成局長等に指示をしているところです。

下半期については、午後帯の情報系番組の改編を行い、内容の改善、改革を図ります。それから、ゴールデン、プライムの時間帯でも、4月改編で思うような視聴率が取れなかつたものについては、思いきって違う番組を投入します。

それから下半期のスポーツについては、恒例のお正月の「箱根駅伝」が、8月の「24時間テレビ」と並ぶ二大行事ですが、他にも様々なスポーツソフトを取り組んでいきます。FIFAのクラブチーム世界一を決めるおなじみの大会、「TOYOTAプレゼンツFIFAクラブワールドカップジャパン」ですが、今年からは日本チームも参戦できることになりましたので、また違う伝え方ができるのではないかと考えています。それから10月28日の日曜日、杜の都仙台で「全日本大学女子駅伝」が開かれます。日本テレビが中継するようになってから今年で2回目です。仙台開催ですが、日本テレビが制作して、全国ネットに送り出す新しい女子駅伝です。既に大阪開催で長く続いていたのですが、これも私どもの放送ソフトとして大きく育てていきたいと思っています。

室川治久取締役：10月改編について、3点あります。まずは平日のゴールデン・プライム帯について。2つ目は、新しいドラマについて。3つ目は夕方の時間帯についてです。

プライムタイムは、月曜日の22時に「オジサンズ11（イレブン）」が始まります。徳光和夫さん、福留功男さん、小倉智昭さん、露木茂さん、鈴木史朗さんらベテラン司会者が11人集まり、ただスタジオで喋るだけではなく、マイク片手にロケ現場へどんどん出ていき、この方たちならではの取材、あるいはコメントを出すという、全く新しいジャーナリズム・バラエティを目指します。日テレ出身の徳光さん、福留さんは非常に張り切っており、新番組に賭ける彼らの感性が強く出るのではと期待しています。

それから火曜19時には、現在土曜日の17時半に放送している人気バラエティ番組、「おネエMANS」を持ってきます。「どんだけえ～」という流行語も、

この番組から出たと聞いています。出演者のいわゆるカリスマオネエ集団という方たちについて、どのように主婦層、若い層に受け入れられているか調査した結果、好感度が非常に高いということを知りました。この方たちだからこそ話せる部分を存分に活かして19時のプライムタイムに挑戦します。出演者は山口達也さん、IKKOさんをはじめとする方々です。

ドラマは、火曜日が「有閑倶楽部」。これは一条ゆかりさんの2,500万部を売り上げた少女漫画界の金字塔ともいえる作品のドラマ化で、主演は赤西仁さんです。原作をお読みの方も多いかと思いますが、セレブ系というか、お金持の息子、娘たちが活躍するというストーリーで、映像的にも内容的にも非常に広がりのある世界ですから、大いに期待していただければと思います。

水曜日は、「働きマン」。これは、「モーニング」連載の安野モヨコさんの人気コミックのドラマ化です。菅野美穂さん主演で、出版の世界の悲喜こもごもを表現してまいります。

それから土曜日が「ドリーム☆アゲイン」。久々の反町隆史さんが、加藤あいさんと共に演いたします。

そして平日の午後帯。この部分は、今回の10月改編の目玉です。まず、「午後は〇〇おもいッきりテレビ」を、放送開始20年を機にパワーアップ、フルモデルチェンジということで、司会のみのもんたさんには引き続きお願ひし、曜日ごとにパートナーを迎えるという方式です。眞鍋かをりさん、加藤晴彦さん、小泉孝太郎さんなどの新しいパートナーを加えて、新しい生活情報エンターテイメントを目指します。放送時間も5分拡大して11時55分からのスタートです。

その後の枠は、これまで放送していた「ザ・ワイド」を終了し、「ドラバラZ ONE」という形で、今までのドラマの再放送等をやっていきます。ただ、単にドラマの再放送だけではなく、バラエティの再放送もありますし、あるいはディレイド方式で新しく放送した番組をそのまますぐに再放送するといった形や、何かあったときには即時、報道対応もできるという自由な形でこの枠を利用していきます。

そして、これも新しい番組ですが、「くちコミ☆ジョニー！」を15時55分から16時53分まで放送します。これはタイトルが示すように、視聴者からの口コミ情報をもとにスタジオで楽しむ番組です。日本テレビのクリスタルホールから生放送をして、見に来てくださった方々と一緒に繰り広げるワイドショーという形で、主な出演者は山口智充さんと友近さんです。若い層をはじめとする幅広い層の視聴者を取り込み、その後のニュース番組「Newsリアルタイム」につなげる戦略です。単に視聴者からの投稿だけではなく、イベントや番組、ワンセグや通販との連動など、地上波の将来に向けた試みを行っていく番組と位置づけています。

久保社長：スポーツイベントについて1点追加です。「東京マラソン」は、今年はフジテレビでしたが、来年は日本テレビが2月に中継します。出場ランナーの募集は締め切ったそうですが、去年に比べて60%以上も応募者が増えたということです。「24時間テレビ」で萩本欽一さんに併走していた、日本テレビのアナウンス部長の大澤が、大のマラソン好きで、その影響もあってかアナウンス部の全員が応募したそうです。もちろん当選しなければ走れませんが、この「東京マラソン」も当然力を入れてやります。

2. 巨人戦の視聴率をどのように分析しているのか

記者：現在優勝争いをしている巨人ですが、前年と比べ巨人戦の視聴率はどうですか。

久保社長：視聴率については、9月までの平均が9.8%で、平均視聴率が2ケタにはちょっと及ばない状況です。この視聴率の現状と、それから試合数の地上波での削減とBSへの展開、あるいはそれに対する視聴者の皆さま、ファンの皆さまの反応、あるいは営業面での成果等々をどう考えるのかということですが、クライマックスシリーズが全部終わったところで、きちんと総括をしたいと思っています。現時点では、私どもは少なくとも編成的、営業的には、地上波での放送を減らしたということについては、間違っていなかつたと思っています。

視聴率については、やはり2ケタを強く期待していますから、まだ残りわずかでも、ぜひとも最後の踏ん張りのところで視聴率が上がることを強く期待しています。やはりスポーツソフトの中では野球、その中でもプロ野球は最も人気がある、ジャイアンツは最も人気があるということで、テレビの前で見ていただく野球ファンが再び増えて、視聴率が回復するということを強く期待しています。その一方で、今一番の悩みは、やはりご覧いただく視聴者の方が、極端に年齢・性別が偏ってしまっていることですね。50歳以上の男性の方が中心にご覧になるソフトということが、ますますはっきりしてしまっている。これの解消が課題ということです。

ただし、将来は真っ暗なのかということ、決してそうではなくて、六大学野球で早稲田に入った斎藤佑樹君のような活躍をする選手も出てきました。また次の新しいスター誕生や、期待されている人材もいますし、決して真っ暗闇で悲観ばかりしているわけではありません。

3. 営業状況と放送外収入の動向

記者：営業状況と放送外収入の動向についてお願ひいたします。

久保社長：まもなく上半期の決算時期ですので概要だけにさせていただきます。5月17日に私どもの前期の連結決算の発表と同時に、今期の業績予想と中間期の業績予想を出しました。売り上げ微減収、営業利益、経常利益、純利益については大幅な減益という予想でしたが、ほぼこの想定した線に沿って営業の数字が出てきています。大きく上方修正する、あるいは大きく改善されつつあるというところまでは至っていません。全体でいえば3%弱のマイナスというところでしょうか。

もちろんこれは反動減の要素もあります。各局共通でもあるワールドカップがなくなったこと。私どもの単発では、前期にあったが、今期になく、その成立が下半期にずれてしまった等の要素はありますが、タイムについていえば、営業的にはとにかく頑張って、少なくとも業績予想をさらに下回るというところにはいっていない。下支えし、かつもう少し数字を上乗せできそうなところへ持ち込もうとしています。ただ一方で、スポットについては苦戦が続いているおり、全体として大きく業績予想を修正する状況には至っていません。何とか少し数字を上乗せできないかという努力の中、最後の追込みというところでしようか。

放送外収入は大きく分けて通販と映画。通販については、前期比2倍ぐらいの売り上げで、上期全体を通じてもそのペースを維持できています。ただし、何度もお断りしているように、遅れて参入していますから、最初のスタートの数字がそれほど大きくなく、現場には厳しい言葉かもしれません、テレビのパワーをもってすれば、ここまでは全力投球すれば到達できる数字かなとも。数字だけ見れば倍々ゲームで伸びてきています。

映画については、「舞妓 Haaaaan !!!」と「東京タワー」、それぞれ予想を上回る興行収入でした。ただし、「DEATH NOTE」にはなかなか及びませんので、下期に期待したいと思っていますし、取り組み方としては、着実に数字を上げられる体制ができており、きちんと収入も上げられるところに来ています。

4. 地上デジタル化の見通しと課題

記者：地上デジタル化への移行についてですが、民放連が、2011年までの設備投資が1兆円を超えるとの試算を発表していますし、総務省が完全移行後最大60万世帯に電波が届かないとみているようですが、その見通しと課題についてお願いします。

久保社長：地上デジタル化の設備投資に関しては、私ども自主努力でコストを節減するために、中継基地、中継タワー等については、それぞれの免許地域ごとにNHKを含めた施設の共同建設とか、あるいはデジタル用の設備については、系列局全体で共同発注する、といった努力をしています。しかし、そもそもは、電波資源の高度利用のためにアナログからデジタルに切り替えるということを、國の方針として決めたわけですから、私どもの自主努力が及ばない地域、及ばない分野については、何らかの国費の助成支援をお願いしたいという主張は一貫していますし、その金額が増えることを願っています。

それから、今回民放連でまとめた数字が増えたという中には、地上デジタル放送の魅力を最大限に發揮するようにという、当局の強い指導もありますが、HD番組の制作、ハイビジョン対応、そういう設備、番組制作等にもお金がかかりしていくということです。HD化して制作費が上がっても、それに伴って広告収入が増えるかといえば、必ずしもそうなっていません。したがって、デジタル化に必要な投資額については、各局の分析も必要ですが、國の施策としてやっている部分については、何としても助成をお願いしたい。私どもは番組制作に最大限の力を尽くしていきたいと考えています。

デジタル電波が届かないとみられるのが60万世帯との試算が出ていますが、私どもの免許地域の関東エリアに限ってみると、数万世帯とみられています。今後さらに精査をしないとわかりませんが、当然各局と共同で、できる手だけはとりますし、それでも届かない場合の最後の手段等についても、いろいろなアイデアが出ています。それもまた各局単独でできるということではないと思いますから、民放連、NHKを含む放送事業者、そこに國や、場合によっては自治体にも相談をして進めていきたいと思っています。

放送事業者として地上デジタルへの移行等についての認知度を上げるため、私どもも努力しています。その一端をご紹介しますと、夏休み期間中開催した

GO! SHI O DOME ジャンボリーで、8月10日、プロレスノアにご協力いただき、街頭プロレスを行いました。「News リアルタイム」や「日テレG+」でも生放送しましたが、屋外の特設リングの周りには1,200人程の皆さまが集まり、熱心に観戦してくださいました。実は、このプロレスノアには以前から地デジ周知活動への協力をお願いしており、リングマットの上に、いわゆる普及マークを表示していただいています。また三沢社長以下プロレスラーの皆さんにも、ファンの皆さんと握手するときに、「2011年7月アナログ停波」というセリフを言っています。このイベントでは、地デジ推進大使である馬場アンサーとともに、地デジのPRもさせていただきました。こうしたちょっと面白い、ささやかな活動を、各局がそれぞれのアイデアで自主努力していく必要があると思っていますので、今後も様々な機会を利用してアピールしていきたいと考えています。

5. 緊急地震速報への対応

記者：10月1日から始まる緊急地震速報にはどのように対応していきますか。

久保社長：民放はNHKに比べて実施の表明が遅っていましたが、この速報が、「視聴者の生命を守る可能性がある情報」であり、視聴者からは迅速な放送対応が期待されるとして、民放連でも取り組むことになりましたので、日本テレビは、10月1日から、緊急地震速報をスーパーで表示することにしました。

＜参考情報＞

気象庁の一般向けの緊急地震速報は、「震度5弱以上の揺れが推定」された場合に、「震度4以上の地域を『強い揺れ』の地域」と呼んで発表されます。日本テレビでは、この一般向けの緊急地震速報が発表されて「関東地方に強い揺れ」があった場合に速報します。文字表示は以下の予定です。



また同時に、民放連からコメントを出している通り、この緊急速報が正しく利用される、情報を受けた時の「心得」が広く一般に知られるよう、周知広報活動にも協力していきます。(9月4日放送のNewsリアルタイム特報「緊急地震速報」等)

6. その他

記者：巨人軍終身名誉監督・長嶋茂雄さんの奥さまがお亡くなりになられました。

久保社長：心からお悔やみ申し上げます。私どもの世代にとっては、憧れのスターと憧れのスターの奥さまでしたから、もっともっと活躍していただきたかったし、長生きしていただきたかったと思っております。長嶋茂雄さんはもちろんお一人個人でも大変な戦後の歴史に残る大スターでいらっしゃるけれども、ある意味では奥さまとご一緒に大スターだったと、私どもの世代には強く印象づけられていますから、非常に残念です。

(了)